

岸和田ええとこ紹介 Vol.2

神於山(こうのやま)



こうのやま ひょうこう きしわだし
 神於山：標高296.4mは岸和田市の
 どこからでも望める独立峰であり、古く
 から市民に親しまれ、大阪50山にも
 選出されています。

てんぼうだい おおさかわん あわじしま ろっこう
 展望台からは大阪湾や淡路島、六甲の
 やまやま すば 眺望がたのしめ、い
 こら一みんなの心のふるさどになって
 いる山を紹介したいと思います。

さんよう うつく こだい かみ お やま しんたいさん すうはいたいしょう
 その山容は美しく、古代から「神の於わす山」神体山として崇拝対象となっ
 ていました。歴史は古く弥生時代の流水文銅鐸(①)が出土しています。

すい しんこう こうのやましんこう あまご ぎょうじ さんかくしんこう ぶつきょう
 水の信仰にささえられた神於山信仰は、雨乞い行事にみられる山岳信仰と仏教
 の融合で、神社や寺を設けて行場とする修験道との関わりが強く、葛城修験の一
 霊場として発展しました。

神於寺



こうのやま なんめん いち こうのじ てんだいしゅうひえいざん まつじ ちゅうせい ひやくいじょう
 神於山の南面に位置する神於寺は天台宗比叡山の末寺で、中世には百以上の
 坊が立ち並んで隆盛を極めていたと伝えられています。

めいじいしんいこう はいぶつきやく だいだげき う げんざい こうのじ ふくちいん
 明治維新以降の廃仏毀釈(②)により大打撃を受け、現在は、神於寺と福智院の2
 坊のみがのこっています。かつて当寺に伝わった神於寺縁起絵巻(南北朝期)は
 中世の縁起絵巻の優品として有名ですが、縁起によれば役行者(③)の開創で
 新羅から飛来した宝勝権現を山内に祀り、一旦荒廃したのちに百済僧光忍が
 奈良期中興したそうです。いこら一事務所隣の祠にもなんと役行者さんが

い
居てました。

あめ ふ たき おが みじんじゃ
雨降りの滝 (意賀美神社)



こうのやま すそ おが みじんじゃ つたがわ さかのぼ ところ いち たか やく
神於山の裾にある意賀美神社は、津田川を遡った所に位置し、高さ約10m
たき ひで たき しんぜん いの かなら あめ ふ
の滝があります。日照りには滝をさらえて神前に祈ると必ず雨が降ったという
でんせつ おが みじんじゃ しゃそう しょうわ ねん ねん きしわだし てんねん
伝説もあります。意賀美神社の社叢(④)は、昭和43年(1968年)には岸和田市の天然
きねんぶつ してい へいせいがんねん おおさかふ ひやくせん してい しぜん
記念物に指定され、平成元年には大阪府の「みどりの百選」に指定されており、自然
かんきょうほぜんちいき えら
環境保全地域にも選ばれています。

こうのやまいったい こうのじ さくら こうよう しきおりおり しぜん たの はる しょか
神於山一帯は、神於寺の桜と紅葉など四季折々の自然が楽しめ、春から初夏に
かけては、ななくさ やらびやゼンマイ、ふもとの はたけ にはツクシなどがみられるため草
つ さいてき なつ ばやし おとず こんちゆう み あき うつく こうよう
摘みに最適。夏はクヌギ林に訪れる昆虫が見られ、秋はドングリや美しい紅葉
み ふゆ ことり あつ
が見られます。冬はメジロやシジュウカラ、ヤマガラ、エナガなどの小鳥がよく集
まれます。きたしゃめん さわすじ しゆ なかま せいいく
まります。北斜面の沢筋には70種にもおよぶシダの仲間が生育しています。

また、はるきがわ げんりゆうち きしわだし ちゆうおうぶ おおさかわん なが ひと
春木川の源流地でもあり岸和田市の中央部を大阪湾へ流れていて、一つ
し かんけつ めずら かせん かこうぶ きたな なんと
の市で完結する珍しい河川でもあります。河口部の汚さは、ワースト1を何度か
と げんざい ちいき せいそうかつどう ごがんこうじ
取り、現在は地域の清掃活動、護岸工事によりとてもきれいになっています。



こうのやま ぜんこく さきが しぜんさいせいすいしんほう もと さとやまほぜんかつどう おこな
神於山は、全国に先駆けて自然再生推進法に基づいた里山保全活動が行われて
いて、げんざい きぎょう ほぜんかつどう
現在、企業やボランティアによる保全活動がなされています。

へいせい ねん こうのやまほぜん かつどうふうけい げんざい みやうち ほぜん
平成24年の神於山保全くらの活動風景で、現在いこら一宮内が保全くらぶに

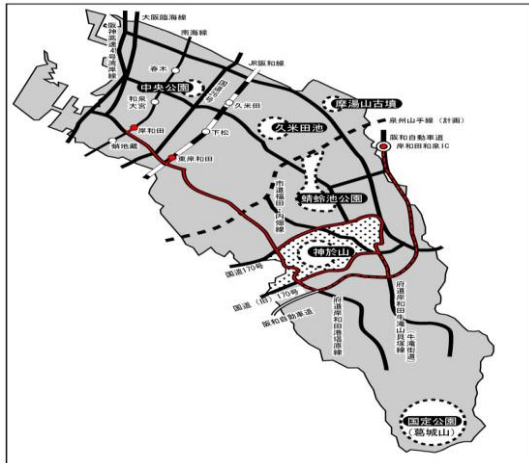
はい かつどう
 入って活動しています！
 ほぜんかつどうふうけい
 ・保全活動風景



☆アクセス☆

じゅうしょ おおさかふきしわだしこうのちよう
 住所：大阪府岸和田市神於 町

こうつう はんわせんひがしきしわだえきげしや
 交通：JR 阪和線 東岸和田駅下車、
 なんかい しらはらしやこい こうのげしや ふん
 南海バス白原車庫行き神於下車5分



※注

- ①流水文銅鐸：銅鐸は村落の祭器で、日常生活から離れた丘頂や山影の聖域に埋めておき、農耕の祭祀に際し、地中からとりだし使用されたものである。表面にあたかも流れる水を表わすような文様で飾っているが、同じ文様は畿内の弥生時代中期の土器にもほどこされており、特徴的な装飾文様である。
- ②廃仏毀釈：仏教排斥のための運動のこと。
- ③役行者：役小角（えんのおづの / おづぬ / おつの）は、飛鳥時代から奈良時代の呪術者である。修験道の開祖とされている。
- ④社叢：神社において社殿や神社境内を囲うように密生している鎮守の森のこと。

引用文献

- ・『岸和田の歴史』

インターネットより

神於山保全くらぶ <http://kounoyama.jimdo.com/>

岸和田市HP観光課 <http://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/36/kounoyama.html>

文化遺産オンライン <http://bunka.nii.ac.jp/SearchDetail.do?heritageId=97589>